TADESKA 2012.06.02
担当　岡見友里江

タイトル：「品詞体系と語学教育」

Titulo: "Las categorías gramaticales y la enseñanza de idiomas"

概要：
第二外国語を習う場合、品詞という概念を理解していると、文法の説明などがわかりやすくなる。しかしながら、母語の品詞体系、既習外国語、英語の品詞体系とスペイン語の品詞体系はまったくおなじではない。一見、同じ基盤に立つとおもわれる品詞体系について、言語ごとの差がどのようにあらわれるかをみていき、それらがどう語学学習に反映できるか、考えていきたいと思う。

Contenido:
La comprensión del concepto de "las categorías gramaticales" ayuda mucho a entender la gramática de la lengua meta. Sin embargo, el sistema de las categorías gramaticales de cada lengua varía según la lengua. En este taller, repasaremos y aclararemos las diferencias entre las categorías gramaticales de distintas lenguas, y propondremos maneras de reflejar estas diferencias en la enseñanza del español.

１．はじめに～文法用語と語学学習～

スペイン語の教科書で用いられる主な文法用語：理解を前提？

☆音節sílaba：

☆性・数：género /número　→文法性については初めての概念

☆定冠詞・不定冠詞artículo determinado/indeterminado：
“聞き手に対して初めて話題にする人や事物に使用（定冠詞）、話し手と聞き手がすでに了解している人や事物に使用（不定冠詞）。『Gramática elemental del español』
→そもそも、冠詞とは何か？

☆直説法・接続法indicativo/subjuntivo：→いずれも、用語は新出。接続法については説明があるが、直説法とは？

☆（規則）活用conjugación：→英語ではどのように説明されていたか？

“一人称単数から三人称複数まで６種類の主語に対応する活用形”『uno, dos, tres』

“スペイン語の動詞は活用の形式によって-ar, -er, -irの三種類に分けられ、主語の人称と数に応じて変化する”『Gramática elemental del español』

☆主格・目的格人称代名詞pronombres personales:→主格、目的格とは？代名詞とは？

☆指示形容詞・指示代名詞adjetivo/pronombre demostrativo：→形容詞と代名詞の違い

☆現在分詞gerundio・過去分詞participio：→英語でも既習のはずだが…

２．品詞とは？

☆始めに品詞ありき。文法構築、言語の記述の際のbuilding blocks。自明の存在。あまりに自明のことなので、そもそも名詞とは？動詞とは？などとは考えない。

２．１．通言語的な品詞定義の難しさ　先行研究

(1) a. Nouns denote persons, places or things ⇔*movimiento, explosión, beso*
b. Adjectives denote properties/qualities ⇔*mismo, mero*
c. Verbs denote actions/events ⇔*saber, ser, estar*
(Croft 2000:65)

☆イェスペルセン『文法の原理』：

“品詞の区別を何に基づかせるべきか、形式（および語形変化）か、文における機能か、それとも、これら全部併用したものか、ということに対して、全体として一致した取り決めに至ることもできていない。（p.130）

“私見では、形式・機能、意味のすべてを考慮に入れなければならないが、特に力説しなければならないのは、もっとも明白な基準である形式にみちびかれる

ならば、ある一つの言語で語類を認めても、別の言語では示唆的な語類をなしていないという結果になるということ、また、意味というものは、非常に重要ではあるが、この上もなく取扱いがむずかしいということ、…”(p.137)

☆品詞定義の意味的、形態的、統語機能的基準の概要

	名詞	形容詞	動詞
意味的基準	存在物（人、場所、物）、概念	特徴、性質	行為、状態
形態的基準	文法性、格、単複、名詞クラスのいずれか（あるいは全部）で屈折する要素 所有形を表す	比較、程度を表す接辞、または語と共起する	人称、数、テンス、ムード、態のいずれか（あるいは全部）を示す接辞を持つ要素
統語機能的基準	冠詞、指示詞、限定詞、関係節などによって修飾可能 文（節）の主語、目的語になれる	名詞を修飾する	節において述部となる

cf.　なんら外的変化なしに、あるいは実詞（名詞）、あるいは動詞、あるいは副詞などとして機能する言語＝中国語

cf.　一言語内においてもおなじ現象。英語の例：
a round of a ladder　(梯子の段)＝名詞
a round table　(丸いテーブル)＝形容詞
He failed to round the lamp-post.　（彼は街灯の柱を回りそこなった）＝動詞
Come round tomorrow.　（明日いらしてください）＝副詞
He walked round the house.　(彼は家の周りを歩いた)＝前置詞

☆Croft (1990a), (2000:65)
“Noun, verb and adjective are not categories of particular languages. But noun, verb and adjective are language universals - that is, there are

typological prototypes.”

Ex. Tongan:
(2) na’e si’i ‘ae akó
PAST small ABS school:DEF = ‘The school was small’
(3) ‘i ‘ene si’i
in 3SG.POSS childhood:DEF = ‘in his/her childhood’

ex. Tuscarora:
(4) ra-kwá:this
MASC.SUBJ-young = ‘He is young’ = ‘boy’
(5) ka-téskr-ahs
NEUT.SUBJ-stink-IMPERF = ‘it stinks’ = ‘goat’

→各言語によって、品詞の切り取り方はそれぞれ。通言語的に、普遍的に適用可能な品詞の定義というものはない。私達は便宜上、品詞を各言語に共通のものとして文法記述に用いている。

→しかしながら人間の用いる全ての言語に、名詞や動詞といった名称で括ることのできるような、意味、機能、分布において共通点を持つ、ある一定の語の分類方法があるということは、直感的に確かであろう。

→それでは、スペイン語の品詞体系は、日本語や英語のそれとどのような点で類似し、異なっているのか？それらは言語教育にどう生かせるのか？一度、各言語の品詞体系をざっと見直し、それぞれの特徴を考えてみることで、明日からの授業に何か役に立つヒントが見いだせることを期待。

２．２． 各教科書での品詞（定義）の取り扱い→ほとんどなし

『Excelente!』（Futamura, et al. 2009:8）
品詞(categoría gramatical)
単語：変化する語⇔変化しない語
変化する語の２系統：
1)名詞、形容詞：性と数の変化(declinación)
2)動詞：法(modo)・時(tiempo)・人称(persona)・数(número)の変化(conjugación)

変化しない語
副詞(adverbio)：前置詞(preposición)：接続詞(conjunción)：間投詞(interjección)

３．文法書での品詞の取り扱い

３．１．『中級スペイン文法』（山田他1995）：

☆名詞：名詞nombreを概念的に定義すれば、人・事物の名を示す語であるといえる。形式と機能を基準としてみると、性・数による語形変化を持つこと、原則的には冠詞をとること、統語論上、主語や目的語、補語になること、文中においては三人称として扱われ、特定の位置をとることなどの文法的特性を総合して、名詞であることが規定される。

☆形容詞：形容詞adjetivoは名詞と性数一致しながらそれを修飾する語で、それ自身独立した意味を持つ語である。大きく、grande「大きい」,azul「青い」,interesante「興味深い」, español「スペインの」, eléctrico「電気の」のように人やものの性質・状態やその所属・分類を説明する叙述形容詞と、mi「私の」, este「この」, muchos「多くの」， cien「100の」などのように人や物を指示したり、その数量を表す限定形容詞に分けられる。

☆動詞：動詞は生物や事物の行為・状態、そして出来事を表す言葉だが、語形変化して時制・数・人称・法の違いを表現する。動詞は文の述部の核となる。

３．２．『新英語学辞典』（大塚・中島監修１９８２）
☆名詞：人または物の名前を表す語。複数変化、属格変化、派生接尾辞、決定詞、文中における位置、強勢の位置。名詞は一次語として主語・目的語・補語として用いられるが、その他形容詞的、副詞的、接続詞的、間投詞的用法がある。

☆形容詞：形容詞を簡潔な言葉で定義するのは困難である。従来、形容詞の特徴を言われてきたものを列挙してみると、１）特性・性状・数量などを表す、

２）名詞を修飾、３）述部として用いられる、４）しばしば副詞の後に生じる、５）程度の副詞veryに修飾されやすく、６）比較変化の際、more, mostの後ろに生ずる、7）-er, -estを伴い比較変化、８）複数形は取らない、９）しばしば-ful, -less, -ousなどを持ち、10)しばしば-ly, -nessを伴い、副詞・名詞になる。

☆動詞：品詞の一つ。形態上-s, -(e)d, -ingの屈折語尾をとり、統語論的には述部を構成する。ふつう、動作・状態・存在などを表す。

３．３．『概説日本語』（北原2006[16]）
☆学校文法：それだけで文節がつくれるか—自立語（動詞、形容詞、形容動詞、名詞、副詞、連体詞、接続詞、感動詞）と付属語（助詞、助動詞）

☆動詞：それだけで述語になり、活用する語。その大部分は動作・作用などの動きを意味し、一部の動詞（「ある」「いる」「できる」など）が状態を意味する。

☆形容詞：形容詞は、物事の性質や状態を表す語で、それだけで述語になり、活用する。形容詞には「冷たい」「明るい」「大きい」「優しい」のような属性形容詞と、「恥ずかしい」「苦しい」「なつかしい」のような感情形容詞がある。（「イ形容詞」）

☆形容動詞：形容動詞は、名詞性を持った形容詞というべき語であり、物事の性質や状態を表す。「にぎやかだ」「元気だ」「活発だ」などがそれであり、それだけで述語になり、活用する。文の中での働きは形容詞と同じであるが、語の作られ方や活用の仕方が違うので独立した品詞とされる。（「ナ形容詞」）

☆名詞：もの、こと、ありさまなどを「それ」と指し示せるようなものとしてとらえる語が名詞である。「だ」をつけて述語になったり、格助詞をつけて補充成分になったりする。

☆活用について：動詞、形容詞、形容動詞は述語として使われるときに、その

働きの違いに応じて形を変える。それは活用と呼ばれている。

３．４．Nueva gramática básica de la lengua española

☆El sustantivo

a)形態的基準： género y número, procesos morfológicos de derivación (antebrazo) y composición (cortacésped).

b)統語的基準：sujeto, complemento directo, entre otras

c)意味的基準：seres o entidades: individuos, grupos, materias, cualidades o sentimientos, sucesos o eventos, relaciones, lugares, otras muchas

☆El adjetivo

a)形態的基準：flexión de género y número, pero no son inherentes. Clase abierta

b)統語的基準：el núcleo de los GRUPOS ADJETIVALES, modificadores del sustantivo o como atributos

c)意味的基準：A menudo denotan cualidades (reloj caro), propiedades (reloj exacto), tipos (reloj digital), y relaciones (política pesquera), pero también cantidades, referencias de tiempo o de lugar, entre otras.

４．品詞間の流動性

４．１．他品詞の名詞化　スペイン語では多い。その際、数変化も起こる。

副詞：una superficie y un dentro, una mayoría de síes

形容詞＋名詞：un malas pulgas たちの悪い人

動詞＋動詞： el sube y baja 浮き沈み

疑問詞：el cómo y el cuándo 方法と時期

冠詞をつけるとどんな品詞でも名詞として働くことができる

lo+形容詞：形容詞が示している意味を抽象化

Lo barato es caro.

定冠詞＋形容詞：el __ rojo ⇔　the red one, （その）赤いの

不定詞に定冠詞などの限定詞を前置して名詞化
El respirar aire puro

４．２．他品詞の形容詞化

色を表す名詞。数の一致をすれば形容詞、しなければ名詞の扱い。
blusas rosa(s),

名詞の形容詞化
horas punta, coche(s) bomba, palabras clave(s)

estilo, número, talla, clase, tipoなどの名詞も前置詞なしに名詞を修飾することができる。性数無変化。
un sillón estilo Luis XV, una fada talla cuarenta, un billete clase turista

副詞は形容詞的に使われても無変化
cuestas arriba 上り坂　gente muy bien とても立派な人たち

４．３．動詞化を形成する接尾辞

-ar: alargar, almacenar
-ear: negrear, relámpaguear
-ecer: florecer, enriquecer
-ficar: pacificar, simplificar
-izar: garantizar, impermeabilizar

５．まとめ

☆文法用語をどう教えるか？英語と、スペイン語、日本との比較対照。

☆品詞（や他の文法用語）には通言語的なヴァリエーションがある。

☆ただ、それらの知識は、全て学生に教える必要はない。これらの知識は教師

側が持っていると役に立つものであり、必要に応じて、説明を深く掘り下げる時などに活用できるかもしれない。いずれにせよ、専門的な文法知識は、あまり学生に負担にならない程度で、授業ないで活用するとよいかもしれない。

ディスカッションを終えての感想：

参加者の皆さんの積極的な討論に支えられ、私のつたない発表ながらも有意義なディスカッションになったと思う。なかなか普段顧みることのない文法用語を改めて見直すことで、スペイン語を教えるうえでの注意点や、問題点などがみえてきたことはとてもためになった。それぞれの教科書で用いられる文法用語には多少の違いがあるが、学生にとってどのように教えればもっとも効率的か、再度自分でも考え直していきたいと思う。